

移住ゼミ 活動報告

ゼミの設立目的

場所を選ばず仕事が出来環境が整備され、人生で多くの時間を過ごす労働での場所の制約がなくなりつつある。また、交通も整備され日帰りで都市部と地方を行き来することが容易になった。仕事や利便性で住居を選ぶのではなく、自分の欲求のために生活することがより容易になる中で、地方に住むという選択肢について考えるのが目的である。

ゼミの活動の概要

- ・南魚沼市について知る
- ・ゼミメンバーが参加していた「チャレンジ、ふくしま塾」について知る
- ・地方移住を実際に行った人にインタビュー

南魚沼市について

南魚沼市は、新潟県南部の魚沼盆地に位置する市であり、令和5年度5月末時点で人口は約5万人である。太平洋側と日本海側を結ぶ交通の大動脈が集中しており、交通・物流の中継地となっている。

雪国として知られる南魚沼市は、積雪が2メートルを超す年も多くある豪雪地帯であり、その積雪量や地形を活かした特徴ある10のスキー場が点在している。令和3年12月～令和4年3月でのスキー場利用客数は90万人を超え、新潟県内のなかでも2番目の多さを誇る。加えて、南魚沼産のコシヒカリは日本でも最高級のブランド米とされている。豊富な雪解け水と魚沼盆地に広がる水はけのよい大地、盆地特有の寒暖差がこの最高級のブランド米を作り上げるために不可欠な要素である。

南魚沼市においては、人口減少・高齢化等が問題となっている。世帯数は増加傾向にあるが、男女ともに人口は減少傾向にある。こうした状況に対して、地域外の人材を誘致するため「地域おこし協力隊」の設置が図られている。加えて、さまざまな支援金の交付が行われている。例としては、「南魚沼市移住支援金」に関して、東京圏から移住した人は一定の要件を満たすことで移住支援金の交付を受けることができる。また、南魚沼市内での創業の促進・産業の活性化を図るため、「南魚沼市総合支援補助金」の交付も行われるなど、支援制度も整えられている。このような新たな企業への支援や優良企業の誘致を進めることで、若者が定住し安心して働けるまちづくりを目指している。



南魚沼市の市章



チャレンジ、ふくしま塾について

立命館の大学の団体で、福島県に行くという活動を行っている、「チャレンジ、ふくしま塾」というものがある。私は昨年度そちらに所属しており、地域の様々な方とかかわってきた。主に福島県浜通り地域に訪れる中で新しい魅力を発見したり、その地域ならではの良さを見つけることができた。私の見つけた福島県浜通り地域のいいところは若者の注目度が案外高いと思ったことだ。

特に私がたくさん訪れ、さらに今年の三月1か月近くを過ごした檜葉町では移住促進チームジュというものが街にあり、その人たちがまちに常駐している。移住したいと思った場合はそのチームに相談することができ、さらには移住する際のイメージ作りというのを得られやすくなる移住体験、仕事体験の取り組みをしていた。また、国の予算を使った移住支援の取り組みもあり、浜通り地域に移住して、一定の条件を満たすことによって120万円の移住支援金を得ることができる。そういった支援が整っている場所であるからこそ、最近若者の移住も増えているらしいのだが、住む場所があまりなかったり、家賃が京都よりも高いところがあったりなど、様々な問題がある。そういった問題をほかの地域と比べてみることでほかの地域の問題にも焦点を当てることができたりするので面白いと思った。

また、小さい町ならではのいいところとして、たくさんの地域のキーパーソンとつながることができるということだ。地方移住したいと思ったときに重要なのはその地域に愛着があるかどうかということだと思う。私はその地域のたくさんの方とつながることができて、その人たちとのつながりを大切にしていきたいと思い、福島県への移住を検討するようになった。

この活動に参加したことによって地方移住に必要なことが見えてきた気がした。

実際に移住した人へのインタビュー

1. インタビューの目的、対象者について

インタビューをした目的は、本業の傍ら、地域の組織に所属して活動している人の話を聞くことで、地域社会に対するイメージを高める。私たちは、地域コミュニティの雰囲気や楽しい瞬間、苦労していることなどの具体的な出来事を聞くことで、よりイメージしやすくなると考えた。これらを踏まえ、私たちはみらいゼミの一人のお父さんにインタビューを行うことにした。お父さんが、その条件にぴったりと一致されていたからだ。

2. 方法

方法としては、オンラインでのインタビュー形式を行った。事前打ち合わせで内容を決め、インタビュアーと話者に分かれてやり取りをする。インタビュー後にまた質問を募り、さらに内容を深めた。

3. インタビュー調査者の経緯、成り立ち

竹内義晴さん、新潟県の妙高市出身。働いていた仕事を辞め、地元に戻り個人事業主として働きながら、しごとのみらいを創業、また地方創生に取り組むようになる。地元に戻ろうと思ったきっかけとしては、両親がいなくなると実家がなくなると感じた、新しい職業の興味、関心などからであった。また、地方創生の内容として、ワーケーションに関する事業開発、プログラムの企画、実施などを行っている。

今後、妙高がどうなっていくのかの思いや展望については、地元の「妙高が」というよりも、「地域の課題をどう解決するか」に関心がある。「仕事」を通じた人間関係を構築し、人が交流することで、誰かの困りごとを誰かの強みで解決したいという思いを持たれていた。

また、地域活性化というよりも、安心、安全な暮らしが維持できるようにしたいと考えている。

今後の予定について

南魚沼市への移住について調べる活動の一環で、2023年9月中旬から下旬にかけて、フィールドワークを実施する。南魚沼市役所や市内企業に話を聞きに行き、移住に関する幅広い情報収集を行う。

南魚沼市の魅力や特徴を深く掘り下げ、将来的な移住を検討している人々や、その当事者になり得る自分自身にとって地方移住はどのような存在かを考える。現地の部署や企業から直接話を聞くことで、移住に関する課題や機会、さらには生活環境や地域の魅力についても深く理解することを目的とする。日程は10日から14日を予定しており、南魚沼市での実際の生活も体験する。

フィールドワークのスケジュールは、メンバーの興味関心に応じてそれぞれ訪問先を決めていく。南魚沼市では昨年度からふるさとワーキングホリデーを実施しているため、その制度を活用することを予定している。

